

OCHIS ■ SAS事業10年ゼミ

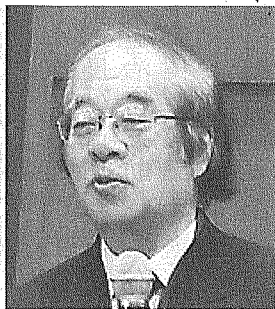
安全対策更なる進化

システム思考で健康管理

【大阪】ヘルスケアネットワーク(OCHIS、武田裕理事長)は9日、睡眠時無呼吸症候群(SAS)対策事業10周年を記念し、「運輸業界の安全対策 更なる進化に向けて」と題したセミナーを開いた。

ヘルスインフォメーションシステムの頭文字をとったもの。健康起因事故を始め、様々なことをマネジメントするには、基本的な情報が不可欠」と呼び掛けた。

後には、更にインフォメーションシステムの意味を感じながら、システム思考の健康管理システムを一緒につくり上げたいと思っている」と述べた。



最新の疲労回復法とは？

をテーマに、自身が研究に携わった疲労に関するデータなどを披露した。

引き続き、国土交通省自動車局安全政策課の平井隆志課長が「事業用自動車の健康起因事故防止対策」を説明。労働科学研究所の酒井一博所長は、運輸業界における健康・安全対策の展

「これからは健康管理システムを一緒につくり上げたい」と武田理事長

望について解説した。

事業者の取り組み事例として、梅田運輸倉庫(井上泰旭会長兼社長、大阪市福島区)の岩崎小夜子常務が、

OCHISと関わってきた10年間の活動内容などを紹介。OCHISと情報交換の場として立ち上げた「両輪会」や、セミナーを活用した自社の健康管理対策と安全管理対策を発表した。作本貞子副理事長は「2003年に山陽新幹線の運転士が引き起こしたオーバーラン事故をきっかけに、『SAS対策は安全と健康

に直結する事業である」との確たる思いから、関係団体の支援をいただきながら全国初のSASスクリーニング検査を立ち上げた。それ以来、運送事業者の健康管理支援に努めてきた」と振り返った。

また、「職業ドライバーの健康管理は、社会全体の安全・安心を実現するためには欠かせない条件として強く求められている。地道な活動を通じて健康管理を推進していくことが今後、我々の果たすべき役割。引き続き、現場目線にこだわり、ぶれることの無いよう運輸業界の発展に向けて精進していきたい」と述べた。

(上田理子)